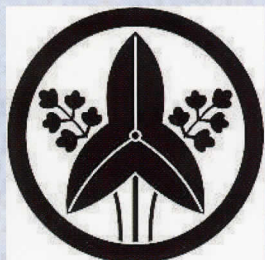


将軍側近水野忠友とその時代



10代将軍徳川家治の側近、水野忠友。家康の生母於大の方の生家である水野家は、彼が生まれた時、旗本でした。その原因は、享保の「松の廊下刃傷事件」にありました。旗本から大名、そして老中へ。名門水野家復活の歩みを、忠友の奮闘と、その時代の姿から明らかにします。

主催 横浜古文書を読む会
共催 横浜市歴史博物館

【日時】平成30年8月31日(金)
午後3時～4時半(受付2時半～)

【会場】横浜市歴史博物館 2階講堂
〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1
(交通)横浜市営地下鉄「センター北」駅1番出口から徒歩5分



【講師】東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 准教授 福留 真紀 氏

(略歴) 東京都生まれ。東京女子大学文理学部史学科卒業。
お茶の水女子大学大学院博士後期課程国際日本学専攻修了。博士(人文科学)。
日本学術振興会特別研究員、長崎大学教育学部准教授などを経て現職。

(著書) 『徳川将軍側近の研究』(単著、校倉書房、2006年)
『名門譜代大名・酒井忠孝の奮闘』(単著、角川学芸出版、2009年)
『将軍側近 柳沢吉保—いかにして悪名は作られたか』(単著、新潮社、2011年)
『将軍と側近—室鳩巢の手紙を読む』(単著、新潮社、2014年)
『名門水野家の復活—御曹司と婿養子の紡いだ100年』(単著、新潮社、2018年)

【参加費】200円(資料代等)

【募集人数】先着70名

【申込み】当日会場へ直接ご来館ください。

※問合せ先 (横浜古文書を読む会 小谷) 090-3331-5962